**VVI Newsletter 2025 New Year Issue**

“Happy New Year!”

みなさん、新年明けましておめでとうございます。

はや一月も半分過ぎましたが、どのような新年を迎えられたでしょうか？

早速ですが、VVI Newsletter２０２５年の新年号をお届けします。

この号は以下の内容で編集されています。

もくじ

１．VVI今年の活動についてのお知らせ　　VVI Co-Chairs:　Nancy Tsurumaki（ナンシー・ツルマキ）、

中瀬恵里（ナカセ・エリ）

2.　VVI50周年イベントについて　　　　　　イベントリーダー　Joanna　Chinen （ジョアンナ・チネン）

３．2024年CWAJ現代版画展の報告　　版画展チーフディレクター　Gemma Fujitani (ジェンマ・フジタニ)

４．2024年ハンズ・オン・アートの報告　　　ハンズ・オン・アート担当　田中　紀子（タナカ　ノリコ）

５．エッセイ　『久しぶりのハンズ・オン・アート』　　中川 美枝子（ナカガワ　ミエコ）

ここから、記事がはじまります。

**１．VVI今年の活動についてのお知らせ**

**VVI Co-chairs Nancy Tsurumaki（ナンシー・ツルマキ）/中瀬恵里（ナカセ　エリ）**

　VVI（Volunteers for the Visually Impaired＝視覚障碍者との交流の会）は、２０２５年に発足

50年を迎えます。そこで今年は、５０周年を記念して二つのイベントの開催を計画しています。

またこの機会に、VVIの活動をより広く日本や海外の方々にも知っていただこうと考え、５０年間

の活動をまとめた小冊子を発行する予定です。ECGや版画展でのハンズ・オン・アートなど

通常のイベントについても、いつもどおり開催予定です。

今年もVVIのイベントにご参加いただけますよう、お待ちしております。

**２．VVI創立50周年のイベントについて　　イベントリーダー　Joanna Chinen（ジョアンナ・チネン）**

VVI創立50周年を記念して、今年実施予定の二つのイベントをご紹介します。

1. **映画上映会とトークイベント**

ひとつは、“Life is Climbing”（人生は　やまのぼり）と題したドキュメンタリー映画の上映とトーク

のイベントです。

小林幸一郎（こばやし こういちろう）さん＝通称コバ　は「パラ登山家」として受賞の経験があり、

またNPO法人「モンキー・マジック」の創立者でもあります。映画は、彼と、彼のガイドでプロの

ロック・クライミング指導者でもある鈴木直也（すずき なおや）さんの物語です。

この上映会には、コバさんご本人と直也さんにも参加していただいて、皆さんと対面でご質問

に答えていただく予定です。

映画は日本語で英語の字幕つき。更に、音声解説もついていますので、皆さんに楽しんで

いただくことができます。開催の予定は以下のとおりです。

日付：４月19日（土曜日）

時間：午後2時から4時まで

会場：アルカディア市ヶ谷

　―――JR中央総武線、東京メトロ有楽町線・南北線、都営地下鉄新宿線、各線の

「市ヶ谷」駅から、徒歩５分）

チケット入手方法など詳細は、近日中にVVI担当からご連絡します。皆さん是非

予定に入れておいてください。よろしくお願いします。

＊ここに、この映画の簡単なご紹介を入れます。

出会いは2001年。「右手、1時半、遠め。右、右、右！」、遠くから聞こえる相棒・

ナオヤの声を自分の目のように頼り、８の字結びのロープに命をゆだねて岩を登る

クライマーコバ。

世界選手権４連覇を成し遂げたふたりが、次に目指したのは、米国ユタ州の大地に聳え立つ、

真っ赤な砂岩フィッシャー・タワーズの尖塔に立つこと。この、とんでもない冒険の結末は？

そして、その時コバの目はどんな景色を見るのだろうか？

　（以上）

**b) 記念コンサート**

もうひとつのイベントは、**VVI**５０周年記念チャリティーコンサートです。

１１月６日（木曜日）に、すみだトリフォニーホール小ホール（JR錦糸町駅徒歩５分）で

開催されます。内容など詳細は改めてお知らせします。

こちらもどうぞ予定に入れてください。お楽しみに！

２つの記念のイベントを通して、皆さんとごいっしょに、この特別な年をお祝いしたいと

思います。どうぞよろしくお願いいたします。

**３．2024年CWAJ現代版画展のご報告**

**第６７回現代版画展リーダー　Gemma・Fujitani （ジェンマ・フジタニ）**

第67回CWAJ現代版画展が、２０２４年10月16日から20日まで、代官山の

ヒルサイド・フォーラムで開かれました。

アート好きの皆さんがたくさん来場された今回の版画展には、現在活躍中の207名の

版画作家が参加され、木版から現代のデジタル技法など様々なスタイルで、伝統的な作品

からポップスタイルまで、優れた作品が展示されました。この版画展は、最高のアートを

皆さんに紹介することに加え若いアーティストを育成する、というCWAJの決意を表す

催しとなっています。

Young Printmaker Award（YPA）（若手版画家賞）によって、若い版画家の支援を続けて

おり、20年目の今年は、青柳由香（アオヤギ　ユカ）さんが受賞。彼女の作品は、来場

された多くの方々の注目を集めました。また、ローロ・パアナ女性版画家賞は、出色の版画家

パーク・アエリさんが３年連続で受賞し、５０万円が授与されました。パークさんの作品は、

日本と韓国の伝統を引き継ぎながら、版画の輝かしい未来を想い起こさせる卓越した

作品です。

加えて、CWAJの７５周年を記念して、特別展『開拓者』が、ヒルサイド・フォーラムと

東京アメリカンクラブのフレデリック・ハリス・ギャラリーで同時開催されました。この特別展は、

２０世紀日本の版画界に大きな功績を残された５人の女流版画家へのオマージュとして

開かれました。篠田桃紅（しのだ とうこう）、吉田千鶴子（よしだ ちずこ）、岩見禮花（いわみ

れいか）、柳沢紀子（やなぎさわ のりこ）, 辰野登恵子（たつの　とえこ）の５人。５０を越える

作品を紹介し、彼女たちが次世代のために示した道をたどり、遺した遺産に敬意を表する

展示会でした。

この版画展は、アートの紹介だけではなく、メンバー同士の交流も大切にしています。

　　　10月17日には、海外メンバーも参加して旧交を温める会が開かれました。また視覚

障害のあるゲストを迎えてハンズ・　オン・アートが催されましたし、CWAJ奨学金を

受けた学生も訪れて、人気のガイドツアーに参加する姿もありました。

この版画展の収益は、全てCWAJ奨学金制度と教育プログラム、特に次世代の方々

へのアートそのものと、勉強を続ける機会の提供等のために使われます。今年の版画展

に参加し、またご支援くださった皆様に深く感謝いたします。おかげさまでアートだけでなく、

未来に受け継ぐべきもの、また親睦を高める機会ともなりました。　　　　　　　　　　以上

**５．2024年ハンズ・オン・アートのご報告　　　2024年HoA担当　田中 紀子（タナカ ノリコ）**

昨年も、ハンズ・オン・アートを、版画展の開催期間に合わせて10月18日,19日,20日の

3日間にわたり開催しました。

今回は、以下の4作品をとりあげました。

作家名：秋山豊英（あきやま とよひで）　作品タイトル：「カエル」

作家名：廣田雷風（ひろた らいふう）　 作品タイトル：「ピアニスト」

作家名：金子邦生 （かねこ くにお）　　 作品タイトル：「Kabuto Man goes to Hollywood」

作家名：宮本承司（みやもと しょうじ） 作品タイトル：「胡蝶鮨」（こちょうずし）

来場されたゲストの方にこの４つの作品の立体コピーをお渡しし、事前に作家の方からいた

だいた作品の解説を基に、ボランティアガイドが作品について説明しました。また希望された

参加者には、点字に訳した解説をお渡ししました。

事前に予約された１８名のゲストを含め、版画展開催中にたくさんの方がハンズ・オン・アート

のブースに立ち寄ってくださいました。晴眼者のゲストも展示されていた立体コピーに興味を

示され、手で触れるアートを体験してくださいましまた、最終日の午後には、作家のおひとり、

廣田雷風さんが来場されて、参加されたゲストの方に直接、作品について丁寧に説明して

くださいました。

今年もハンズ・オン・アートを実施する予定です。どうぞお楽しみに。　　　　　　　以上

**５．エッセイ　「ひさしぶりのハンズ・オン・アート」**　　　　　　中川　美枝子（ナカガワ　ミエコ）

10月20日、私は10年以上ぶりに、版画展のハンズ・オン・アートにうかがいました。

今回私が特に考えさせられたのは、版画作品から受ける印象が、言葉と触覚では異なる、

ということです。「美術は触って鑑賞するのと、説明を聞くのとどっちがいい？」ということを言い

たいわけではありません。

全盲の私にとって、今回の展覧会は、触覚と言葉から得られる作品の特徴をとおして、イメージ

を頭の中で組み立てていくことの面白さを、久しぶりに感じられた時間でした。

その楽しさを如実に感じたのは、廣田雷風氏の「ピアニスト」を鑑賞した体験でした。「ピアニスト」

は、ピアノの鍵盤と、音符がデザインされた（背広の）ジャケットを描いている作品です。立体コピー

を触ってみると、私の頭の中ではピアノの白鍵と黒鍵のつるつるした感触が広がってきました。

もちろん、本来は立体コピー用紙はざらざらしたテクスチャーなのですが、私の頭の中では、

本物のピアノのイメージが浮かび、自分の手が自然とピアノを演奏する直前のあの形（右手の

親指はド、人差し指はㇾ・・というように）なっていることに気がつきました。リアルなピアノが

ジャケットに張り付いたような代物を創造していた私でしたが、実際の作品の前でガイドの方や

作者の方にお話をうかがうと、脳内のイメージが少しづつ描きかえられていきました。

実はジャケットの鍵盤は実際のピアノのような白と黒ではなく、赤やオレンジ、緑などのカラフルな

色がつけられていたのです。作品の前でいろいろな方のお話を聞くうちに、私の脳内ではモノトーン

のシックなジャケットから、ビビットカラーでポップな温かいジャケットのイメージに塗り替えられて

いて、親しみやすい明るいピアノの演奏がどこからか聞こえてくるような気さえしてきました。

全盲の私にとって、一つの美術作品の形をとらえ、作品に込められた工夫やメッセージを汲み

取るには、目の見える方よりもずっと時間がかかります。全く見当違いのものをイメージしている

こともあると思います。

だからこそ、作品の立体コピーや様々な言葉、時には参考物（「ピアニスト」に関しては鍵盤

ハーモニカを通して少しづつ作品の像を形づくる時間が楽しいのです。久しぶりのハンズ・オン・

アートではそんな楽しみをたくさん想い出すことができました。他の作品にも触れたかったの

ですが、文章をうまくまとめられなかったので、いつか直接お話できればうれしいです。

多くのステキな作品と工夫を詰め込んで準備してくださったCWAJの皆様、ほんとうにありがとう

ございました。

**５．編集後記**

　　　新しい年、またたくさんの思い出に残ることが待ち受けていることと思います。CWAJ、VVIが、

その中のいくつかに係わることができましたら、とてもうれしいです。５０周年という記念の年です

からね。今回ご案内したイベントや、毎年の版画展でのハンズ・オン・アートなどでお会いできる

ことを楽しみにしています。

今年も、皆さんがお元気で、前向きに、一年をお過ごしになれますよう願っております。

記事は以上です。

この下、担当者の名前のあとに、記事2．５０周年記念のイベントに関する記事（ジョアンナ・チネン）

と、記事3. 6７回CWAJ版画展報告（ジェンマ・フジタニ）のオリジナル英文をご参考までに掲載します。

制作担当：いしい ふみこ

送信担当：もとむら みちこ

校正担当：まつばら くみこ　なかせ えり）

「ご参考」

２． 50周年記念のイベントについて　　イベントリーダー　Joanna Chinen

On the occasion of the 50th Anniversary of VVI, two special events are being held to

celebrate five decades of VVI programs and CWAJ’s strong ties with the community of

visually impaired in Japan.

1. The first is “Life is Climbing”: Documentary film viewing and Talk Event.

Please come to see “Life is Climbing”, the story of Koichiro Kobayashi “Koba”, award-

winning para-climber and founder of NPO Monkey Magic, and his sighted guide, Naoya

Suzuki, professional rock climbing teacher and guide. We’re excited to announce

that both “Koba” and Naoya will attend for a Q&A with the audience.

The film is in Japanese with English subtitles so all can enjoy. We’re also pleased to tell

you the film has Audio Description in Japanese!

　＊Date: Saturday, April 19, 2025

＊Time: 2:00 – 4:00 pm

　 ＊Venue: Arcadia Ichigaya (Conveniently located close to Ichigaya Station

(JR Chuo/Sobu Line, Yurakucho Line, Namboku Line, Toei-Shinjuku Line)

More details will be sent by VVI, including how to purchase a ticket. But for now SAVE

THE DATE for Saturday afternoon, April 19th.

1. The second event is the VVI 50th Anniversary Charity Concert to be held on

November 6 (Thursday) from 7-9 pm at Sumida Triphony Hall.

Look forward to more details about this event later.

Let’s celebrate the 50th Anniversary of CWAJ’s Volunteers for the Visually Impaired

together at these very special events! (end)

**３. 67th CWAJ Print Show – A Celebration of Community (Gemma Fujitani)**

Art enthusiasts gathered for the 67th CWAJ Print Show, held from October 16th to 20th

at the Hillside Forum in Daikanyama, Tokyo. Featuring 207 remarkable prints

by established and emerging artists. The juried exhibition offered a delightful mix of styles

and techniques, from traditional to pop, and included techniques ranging from woodblock

to modern digital work. Each piece was carefully selected. It's a testament to CWAJ’s

commitment to artistic excellence and its role in the development of young artists.

The Print Show continued to support young talent through the annual Young Printmaker

Award (YPA), now in its 20th year. This year’s YPA winner, Aoyagi Yuka, presented a

collection that captivated the audience. In addition, the CWAJ Print Show Loro Piana

Woman Artist Award was presented for the third consecutive year, with emerging artist

Park Aeri receiving the 500,000yen prize. Park’s exceptional work, which draws on her

Japanese and Korean heritage, reflects great promise for the future of printmaking.

In celebration of CWAJ’s 75th anniversary, a special exhibition, “Trailblazers” was held at

both the Hillside Forum and the Frederick Harris Gallery at the Tokyo American Club

(TAC). “Trailblazers” paid tribute to five pioneering women artists who profoundly shaped

Japanese art in the 20th century: SHINODA Toko, YOSHIDA Chizuko, IWAMI Reika,

YANAGISAWA Noriko, and TATSUNO Toeko. Featuring over 50 works, this exhibition

honored the enduring legacy of these artists and showed the paths they have paved for

future generations.

As always, the Print Show was about more than just art; it was a celebration of community..

On October 17, members and overseas visitors gathered at Bistro Favori for a warm

evening of conversation and connection. During the show, visually impaired guests

enjoyed our Hands-on Art program, while past scholarship recipients came to

show support and enjoy the ever-popular guided tour and embossing workshop.

All net proceeds from the Print Show go to CWAJ’s scholarship and education programs,

bringing art, learning, and opportunity to future generations. Our heartfelt thanks to

everyone who attended, participated, and supported this year’s show, making it a

memorable celebration of art, legacy, and community. (end)